

ローマのバロック様式を巡る (5) ポポロ門からスペイン階段へ

藤原 道夫

ポポロ門はローマ市街を囲む城壁の北端にある。昔、北の方からフラミニア街道を歩いて来た人たち（多くは巡礼者、後にモーツァルトやゲーテら）は、この門をくぐってローマに着いたことを実感したよう。そしてポポロ広場の税関で滞在の手続きをとった。

広場は 16 世紀末法王の命によりベルニーニを含む数人の建築家によって整備された。先ず中央に高いオベリスクが立つ。楕円形の広場から街の中心に向かう道が 3 本整備され、真ん中のコルソ通り入口の両側にバロック様式の小さな教会が建てられた。広場はその後も改修され、オベリスクの両側にライオンの噴水が設置されて現在の姿になっている。

広場から左手（東）のピンチョの丘まで登ってみる。ここもよく整備されており、テラスからポポロ広場全体が見渡せる。古代エジプトで作られたオベリスクは、広場中央に元々あるかのように泰然と聳えている。

門の傍に飾り気ないファサードのポポロ教会が建つ。中にカラヴァッジョの絵画 2 点が飾られている礼拝堂がある。1 点は「聖ペテロの殉教」、師イエスと同じ磔刑では畏れ多いと逆十字にされる場面。強靱な肉体と強固な意志を表す顔とが印象的。他は「サウロの回心」、キリスト教徒を迫害していたサウロ（後にパウロ）が落雷（神の啓示？）により突然盲目となり、落馬した場面。再び目が見えるようになったパウロはキリスト教に回心し、布教者に転じる。他にも多くの美術品があり、半日かけて見学したことが思い出される。

コルソ通りはポポロ広場から古代ローマの中心部ヴェネツィア広場へと通じている。

左側の道を行くと、10 分程でスペイン広場に着く。この辺りはローマで最も賑わっている所のように。スペイン階段の登り口であり、近くにブランド品を扱う店が軒を連ねる通りもある。広場中心の船形をした噴水は、有名なジャン・ベルニーニの父ピエトロが製作した。階段は無名のフランチェスコ・デ・サンクティスにより 1726 年完成され、後にバロック様式の傑作と評価される。階段は、天辺に建つフランス風教会と一体化して有名な風景を形作る。

人々を避けながら階段をゆっくり登り、上の方で石段に腰かけてしばし展望を楽しむ。

以上 4 コースを辿ってバロック様式の作品群を中心にローマを巡ってみた。まだ重要な所もあるのだがここまで。バロックの街ローマを書きながら、私は極上の感慨に浸った。